

シラバス

科目番号・科目名	1 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)多様なサービスの理解	3	3	0	介護保険サービス（居宅、施設等）、介護保険外サービスについて理解する。 講義：3時間
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	多様な現場におけるそれぞれの仕事内容、事例に基づく討議によるサービス提供現場の具体的なイメージ、グループワークによるケアプラン作成からサービス提供に至るまでの一連の流れ等を理解する。 講義：3時間
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	2 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)人権と尊厳を支える介護	6	1	5	人権と尊厳の保持、ICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止、身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要について理解する。 講義：1時間
(2)自立に向けた介護	3	0.5	2.5	自立支援、残存能力の活用、重度化防止、意欲を高める支援、介護予防の考え方等を事例に基づく討議を交えて理解する。 講義：0.5時間
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	冊子：ゆまにてなにわ（大阪府府民文化部人権室）
------------	-------------------------

科目番号・科目名	3 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	介護環境の特徴と理解、介護の専門性、介護に関わる職種について理解する。 講義：1時間
(2)介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	専門職としての倫理の意義、社会的責任、プライバシーの保護・尊重をグループワークを交えて理解する。 講義：0.5時間
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	介護における安全の確保とリスクマネジメント（事故予防、安全対策）、感染症対策を理解する。 講義：1時間
(4)介護職の安全	1	0.5	0.5	介護職の心身の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識等を事例に基づく討議を交えて理解する。 講義：0.5時間
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)介護保険制度	3.5	0.5	3	介護保険制度創設の背景及び目的、動向、仕組みの基礎的理解、制度を支える財源、組織等を理解する。 講義：0.5時間
(2)医療との連携とリハビリテーション	1.5	0.5	1	医療行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割、連携、リハビリテーションの理念を事例に基づく討議を交えて理解する。 講義：0.5時間
(3)障がい者総合支援制度及びその他の制度	4	0.5	3.5	障がい者福祉制度の理念、自立支援に関する制度の仕組みの基礎等を理解する。 講義：0.5時間
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	5 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、技法、道具を用いた言語的コミュニケーション、利用者や家族とのコミュニケーションの実際等をロールプレイを通して理解する。 講義：1.5時間
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	記録における情報の共有化、報告について、コミュニケーションをうながす環境整備等をロールプレイを通して理解する。 講義：1.5時間
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	模造紙
------------	-----

科目番号・科目名	6 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、機能の変化と日常生活への影響を小グループにおける討議を交えて理解する。 講義：1. 5時間
(2)高齢者と健康	3	1.5	1.5	高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点を理解する。 講義：1. 5時間
(合計時間数)	6	3	3	
使用する機器・備品等				

科目番号・科目名	7 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	認知症ケアの理念、パーソンセンタードケアを通信添削課題を通して理解する。 講義：0.5時間
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1	0.5	認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、認知症に使用される薬について理解する。 講義：1時間
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.5	1	1.5	認知症の中核症状、認知症の行動、心理症状、不適切なケア、生活環境で改善、認知症利用者への対応を、ビデオの事例を使い、討議を交えて理解する。 講義：1時間
(4)家族への支援	1	0.5	0.5	認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減をロールプレイを通して理解する。 講義：0.5時間
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	ビデオ「ぼけなんか怖くない ～グループホームで立ち直る人々～」 高齢社会をよくする女性の会・京都 制作
------------	--

科目番号・科目名	8 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と I C F、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本理念を理解する。 講義：0.5時間
(2)障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5	0.5	1	身体障がい、知的障がい、精神障がい、その他の心身の機能障がいについて理解する。 講義：0.5時間
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	家族への支援（障がいの理解、受容支援、介護負担の軽減）を事例に基づく討議を交えて理解する。 講義：0.5時間
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	9 こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)介護の基本的な考え方	1	1	0	理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護について理解する。 講義：1時間
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.5	2	1.5	学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や生涯を受け入れる適応行動等を小グループでの討論を交えて理解する。 講義：2時間
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5.5	4	1.5	人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する知識等について理解する。 講義：4時間
(4)生活と家事	5	4	1	生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観等を討議を交えて理解する。 講義：4時間
(5)快適な居住環境整備と介護	3.5	3	0.5	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を事例に基づく討議を交えて理解する。 講義：3時間
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7	0.5	整容に関する基礎知識、整容の支援技術を理解する。衣服の着脱と洗面の学習において実技演習を行う。 講義：2時間 演習：5時間
(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	移動・移乗に関する基礎知識、廃用症候群、様々な移動・移乗に関する用具とその活用方法を理解する。ボディメカニクスの理解、歩行の介助、車椅子の移動の介助、車椅子への移乗の介助の学習において実技演習を行う。 講義：2時間 演習：5時間

(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7	0.5	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法等を理解する。食事の介助の学習において実技演習を行う。 講義：2時間 演習：5時間
(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法等を理解する。入浴・洗髪の介助、手浴・足浴の介助、清拭の方法の学習において実技演習を行う。 講義：2時間 演習：5時間
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7	0.5	排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法等を理解する。ポータブルトイレの活用方法、おむつ交換、排泄の介助の学習において実技演習を行う。また、事前に紙おむつの体験をし、結果を討議・発表する。 講義：3時間 演習：4時間
(11)睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3.5	3	0.5	睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法等を理解する。睡眠に係る福祉用具の方法の学習において実技演習を行う。 講義：2時間 演習：1時間
(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	4.5	4	0.5	終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、死と向き合うところの理解を小グループによる討議を交えて理解する。 講義：4時間
(13)介護課程の基礎的理解	5	2	3	介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチを小グループにおける討議を交えて理解する。 講義：2時間
(14)総合生活支援技術演習	5	5	0	一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得の度合いの評価を行なう。また事例を用いた討議で介護の全体像を把握し、具体的な介護内容や介護の留意点について理解する。 講義：5時間
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	電動ベッド、ギャッジベッド、ベッド柵、シーツ、毛布、ベッドパット、防水シーツ、タオルケット、枕、前開きパジャマ、浴衣、尿器、差込便器、T字杖、白杖、三角巾、体温計、自助具、水温計、洗面器、ピッチャー、吸い飲み、ポータブルトイレ、浴槽、車椅子、アイマスクなど
------------	--

科目番号・科目名	10 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
(1)振り返り	2	2	0	研修を通して学んだことを介護のあらゆる場面で意識することをロールプレイを通して理解する。 講義：2時間
(2)就業への備えと研修修了後における事例	2	2	0	介護現場の体験談などから、就業までの具体的な道筋、就業後の学習意識について理解する。 講義：2時間
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--